

報告：原発問題をめぐる全体状況（1、2月合併報告）

④第 89 回脱原発八千代ネットワーク定例会

2020年2月22日 川井康郎

1. フクシマの状況

- (1) 1/31、ALPS 汚染水処理小委員会は「汚染水は海洋あるいは大気に放出することが現実的な選択肢」とする事務局（経産省）案を合意。地域住民、漁連などが求める長期保管継続、モルタル化案は置き去りに。3/4 大井川茨城県知事は「容認できない」と発言。
- (2) 3/14、JR 常磐線の富岡・浪江間が開通予定。新 3 駅（夜ノ森、大野、双葉）周辺の避難指示を解除予定だが住民の帰還は困難。
- (3) 環境省は 1/8-2/7 に除染土再利用のための省令案についてパブコメを募集。狙いは、膨大な量の 8,000Bq/kg 以下の汚染土壌再利用（土木事業用盛土、埋立て、土地造成、農地造成等）の加速。これにより借り上げ期間を 30 年としている中間貯蔵施設の負荷低減を目論む。

2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 稼働状況：運転中は 6 基（大飯③④、高浜④、玄海③④、川内①）。定期点検中は 3 基（高浜③、伊方③、川内②）。川内①は 3/18、②は 5/22 に特重施設設置期限により停止される予定。
- (2) 1/17 広島高裁（森一岳裁判長）は伊方③運転差し止め仮処分を決定。活断層と火山噴火影響に係る四国電力と規制委員会のリスク評価が不足と判断。2/19 四国電力は広島高裁に対し異議申し立てならびに仮処分執行停止を申し立てた。
- (3) 定期点検中の伊方原発③でトラブル続出
 - 1/12：炉心構造物引き上げ時に制御棒を誤って引き抜き
 - 1/20：使用済み燃料ピット内にて燃料集集体がラック枠に乗り上げて落下信号
 - 1/25：高圧受電が停止し外部電源喪失。一時的に使用済み燃料プールの冷却停止
- (4) 1/14 伊方③の定期点検にて国内で初めて商業運転で使用済みの MOX 燃料が取り出された。これまで、国や電力会社がつき続けてきたウソの象徴ともいえる「核のゴミ」の行き先は？
- (5) 2/7 規制委員会は日本原電が提出した敦賀 2 号機建屋直下の地質データに書き換えがあったと指摘・批判。2012 年に実施した掘削調査記録の「未固結粘土状部」を「固結粘土状部」と書き換えたもの（他に十数か所を書き換えと）。あまりの悪質さに言葉を失う。
- (6) 2/18 定期点検中の高浜③号機にて、蒸気発生器の伝熱管 2 本に異常な減肉を発見。昨年の④号機の 5 箇所（原因不明のまま）と共通。



3. その他のトピックス

- (1) 1/11 台湾の総統選挙で脱原発を掲げる蔡英文氏（民進党）が再選。現在稼働中の4基は2025年に停止予定。残る課題は核廃棄物処理と再生可能エネルギーの拡大。
- (2) 2/11 米国防省は新開発の小型核弾頭を潜水艦に実戦配備したと発表。「抑止力の強化」を主張するが核使用や先制使用のハードルが下がる。
- (3) 2/13 東京電力はオリンピック聖火リレーの出発点であるJヴィレッジでの土壌測定値が103万Bq/kg（Cs合計）、空間線量が $27\mu\text{Sv/h}$ （地表）、 $0.47\mu\text{Sv/h}$ （地上1m）であることを認めた。これは昨年11月のグリーンピースによる測定と2/13おしどりマコさんの追求によるもの。
- (4) 2/16 「脱原発をめざす首長会議（世話人：加藤小田原市長、三上元湖西市長他）」は敦賀市で記者会見し、「核燃料サイクルを柱とする原子力政策を見直し、国内の全原発を廃炉にする」「福島汚染水の海洋放出を中止する」よう求める緊急声明を発表

<以上>